津田左右吉物語

第25回

左右吉をとりまく人々
（会津八一（やいち）文学博士）

早稲田大学英文学科を卒業した会津八一は、早稲田中学の教頭などを経て、早稲田大学教授として東洋美術史の講義を行っていました。

芸術的感性に優れていた八一は、京都や奈良などへもよく出かけ、東洋や日本の美術を見る眼を養ってきました。

八一は、自身の研究に対する意気込みを書いたはがきを何通か左右吉へ送りました。その後、『法隆寺・法起寺・法輪寺建立年代の研究』の論文を、大学に学位請求論文として提出しました。そして、この学位論文を審査したのは左右吉だったのです。昭和9年、八一は審査で合格し、学位を取得することができました。

坪内逍遙とも師弟関係にあった八一は、この論文の例言に「この小冊子を成すに至らしめられた文学博士坪内逍遙氏、および市島春城氏に捧げる」と記しています。この年、逍遙の後援もあり、八一の収集した東洋美術資料を展示する「東洋美術史研究室」が早稲田大学に設置されました。

▶大正11年2月、熱海双柿舎にて
『演劇博物館』所蔵